

診療情報学 第2版



評者 武田 隆久 武田病院グループ理事長

このほど、日本診療情報管理学会による『診療情報学』の第2版が発刊された。同書は2010年9月に医学書院から初版が刊行されて以来、多くの関係者に親しまれてきた。初版刊行から5年目を迎え、急速な時代の変化に合わせて、新たな概念、知識、技術を取り入れ、清新な内容とすることで学術書としての質を維持し、医療の質向上と情報活用の基盤整備に資するものにしたと同学会により第2版がまとめられた。

本書の「序」の中で、編集委員長の大井利夫氏は、最新情報を優先し、時代に合わない内容などは更新して簡潔にまとめ、追加項目は、できるだけ初版の該当項目の中に付け加えるなどの工夫を施したと解説している。

その基本方針に沿って、本書は初版を引き継ぎ、「I. 診療情報学総論」「II. 診療情報の価値の高めるためのシステムと評価(診療情報学と応用)」と「III. 診療記録の種類と記載法」の三部構成となっている。今回新たに、がん登録推進法に係る内容、WHO国際統計分類の動向、JCI (Joint Commission International) と救急・災害医療に係る診療情報などが加筆されている。その内容は極めて密度が高く、その意味で本書は正しく診療情報に関する大著の最新版と言える。

今回の本書の出版に当たって大井氏は、「序論」の中で、「とすると、データは多いが、真に伝えるべき情報の少

ないDRIP Syndrome (筆者註: Data-Rich-Information-Poor Syndrome) に陥っていることはないだろうか」と初版同様、指摘している(p. 3)。医療関係者として、これは常に重要な示唆として胸にとどめておかなければならない。その上で、「患者の医療への有用性とデータベース化された情報の活用は、診療情報の必要性を表しているとまとめることができるであろう。(中略)『診療情報』の諸問題について現時点における統一した見解をまとめることは意義深いことであり、長年の念願でもあった。その意味では、本書は日本診療情報管理学会にとって夢の実現といえなくもない」と改めて感慨深げに述べており、本書は、まさに夢の実現、そして夢の継続にふさわしいものとなっている。

執筆者の方々は日本診療情報管理学会の役員を含めいずれも診療情報分野の専門家、あるいは実務の担当者であり、診療情報に関する最新の知見が体系的に、わかりやすくまとめられている。したがって本書の刊行はわが国の医療の質の向上にとって極めて重要なことであると言って間違いない。医師、看護師など医療従事者、医療関係者はもちろんのこと、診療情報に取り組む大学生、専門学校生など、これからの時代を担う方々にも本書を参照されることをお勧めする。

日本診療情報管理学会 編
B5判/488頁/2015年/定価(本体8,000円+税8%) / ISBN978-4-260-02397-9 / 医学書院 刊